

平成29年度第1回秋田市公立大学法人評価委員会会議録

1 日 時 平成29年7月13日(木) 10:45～12:00

2 会 場 秋田市役所 4階 会議兼応接室

3 出席者

【委員】

鑑 隆千代 委員

高橋 誠記 委員

福士 文友 委員

吉濱 久悦 委員

【公立大学法人秋田公立美術大学】

霜鳥理事長、藤副学長、毛内副学長、二木事務局長、北島総務課長、大山学生課長、藤原企画課長、ほか関係職員

【設置者・評価委員会事務局】

柿崎企画財政部長、熊地参事、ほか関係職員

4 発言録

次第1 開会

事務局

ただいまから平成29年度第1回秋田市公立大学法人評価委員会を開会する。

三浦潔委員が欠席のため、全委員5名中4名の出席となったが、本委員会条例に規定されている定足数を満たしていることを報告する。

設置者を代表し、秋田市企画財政部長があいさつを申し上げる。

企画調整部長

(あいさつ)

次第2 新任委員の紹介

事務局

(高橋誠記委員および吉濱久悦委員を紹介)

次第3 委員長選任

事務局

野田委員長が退任したことから、議事に入る前に委員長を選任したい。自薦、推薦をお願いする。

委員

高橋委員を推薦する。

(異議無し)

事務局	<p>それでは、高橋委員を委員長に選任する。 引き続き議事に入る。 進行を高橋委員長にお願いします。</p>
次第 4 議事	(1) 秋田公立美術大学平成 28 年度業務実績について
委員長	<p>それでは、議事(1)の「秋田公立美術大学の平成 28 年度業務実績について」事前聴取への対応状況を審議する。 理事長から役員紹介の後、説明をお願いします。</p>
公立大学法人	(出席役員を紹介)
公立大学法人	(資料 1、資料 2 に基づき説明)
公立大学法人	<p>説明の補足として、連番 54 について、進路決定率の中期目標が 100 パーセントであることについて、美術系の大学においては困難な目標である。</p> <p>美術系の大学では、なかなか就職がはつきりしなかったり、年度を越えて就職するといった実態がある。</p> <p>また、他の大学と比べ、学部構成や学生の意識もずいぶん異なっている。</p> <p>そういった意味でも進路決定率 100 パーセントという目標は、かなり難しいものである。</p> <p>例として東京藝術大学を挙げると、約 10 パーセントの就職率であり、就職しなかった卒業生の半分が大学院に進学し、それ以外の卒業生は進路が不明である。</p> <p>その点、本学の進路決定率は誇れるものと思っているが、控えめにⅢと評価している。</p>
委員長	<p>それでは、資料 1 および 2 により説明のあったことについて、委員に意見等を伺うこととする。</p>
委員	<p>回答については、おおむね了承している</p> <p>連番 19 について、公開した授業が最終回の講評の授業が多かったということは、教員の参観状況が芳しくなくなることが想定されたのではないか。</p> <p>参観人数を増やすための仕組みを考えてみてはいかがか。</p> <p>中期目標は見直しはしないのか伺いたい。</p>
公立大学法人	<p>中期目標は大学の状況が根本的に変わらない限り見直しはしない。</p>
委員	<p>連番 63 について、展示場所は日常的に人が訪れやすい場所なのか疑問に感じる。</p> <p>展示場所を替えるなど検討してみてもいかがか。</p> <p>連番 73-2 について、策定に至らなかった理由を伺いたい。</p>

公立大学法人	緊急の対応を要する事案が発生し、結果的に手が回らなかったことによる。
委員	<p>連番105については、Ⅳの評価でもよいと思っている。</p> <p>芸術の創造には多くの資源を要すると思われる。</p> <p>そういった点で、効率的な経営を進めていることは価値のあることである。</p> <p>連番54の進路決定率について、効率的な経営のもとで、学生に自由な芸術の創造と教育の場を与えるのが重要である。</p> <p>進路決定率に囚われてしまうと、芸術の創造より職能みたいなものを教育することを目的とする大学と誤解をされてしまう。</p> <p>このような弊害がでないよう、再設定が可能であれば、適切な目標を検討されてはいかがか。</p> <p>連番63について、学生の自由な発表の場であり、また、鑑賞する貴重な場であるので、適切なPRをお願いしたい。</p>
公立大学法人	<p>PRについて、本学の活動が新聞やテレビに取り上げられることはありがたいことであり、今後とも努力していく。</p> <p>また、次期中期目標は、大学の実態に沿った、活動状況が適切に評価されるような設定をしたい。</p>
委員	<p>質問をした内容については、ご回答いただいているので問題ない。</p> <p>評価の際に感じるのは、項目のボリュームが圧倒的に多い。これだけのものを評価し、運営していくのは大変なことであるが頑張ってもらいたい。</p>
公立大学法人	ありがとうございます。
委員	<p>評価の変更について、ⅣからⅢになったことは重要なことではない。</p> <p>平成28年度も努力したが、結果、Ⅲという年度計画を十分に実施したということであり、そこは問題にならないのではないかと。</p> <p>ⅡやⅠの評価となった時がどういうことか問題である。</p> <p>Ⅳという評価の際、定量的な目的に対してそれを上回ったというのは評価しやすいが、定性的な問題でⅢからⅣまたはⅣという評価にするのは難しいところがある。</p> <p>定性的な目標について、共通するスタンダードな評価の考え方を伺いたい。</p>
公立大学法人	<p>定性的な目標の評価の考え方については、学内で自己評価委員会というものを設けて、その場で考え方を整理している。</p> <p>実施した内容が前年度と実績と比較して上回って実施したと判断されるもので、かつ、年度計画と比較しても上回って実施したと判断されるものは、自己評価としてⅣと評価すべきと整理している。</p>
委員	学内で深慮して、専門的な見地から判断されているということによいか。

公立大学法人	そのとおりである。
委員	<p>展覧会は、教育研究の発表の場として研究レベルや質の向上という面と、地域住民に美術に接する機会を増やす地域貢献との両面の性質があると思うが、今回の計画と実績との間でどのように棲み分けているのか。</p>
公立大学法人	<p>両方の面があるが、切り分けている考えている訳ではなく、総体的に実際に行われた内容と地域交流等を勘案して自己評価している。</p>
委員	<p>進路決定率について、創造的な活動は成果を出すには時間がかかることであることから、これのみを重視するのはいかがなものか。</p> <p>ただし、就職を希望する学生の就職実態は、一つの指標として考えられる。</p> <p>参考までに、秋田県立大学では進路決定率の目標を100パーセントと設定することは、目標の立て方として再考しなければならない流れになりつつある。</p> <p>秋田公立美術大学でも検討していただきたい。</p>
公立大学法人	<p>参考に、本学の就職の実績について報告する。</p> <p>就職を希望した学生は78名、うち就職が決定した学生は67名であり、約8割の就職決定率であった。</p> <p>進学については、希望した学生は12名、うち決定した学生は11名であった。</p> <p>それ以外で、作家を希望した学生は3名であり、実際に作家になった訳ではないが、全員、作家への道に進んでいる。</p>
委員	<p>4分の3が県外からの入学となっているが、議会等から県内出身者の入学生を増やすべきという要望、意見はないか。</p>
公立大学法人	<p>議会等から、そういった要望や意見はない。</p> <p>なお、秋田市内卒の推薦がある。</p> <p>これは秋田市内に住んでいる学生が対象であり、秋田市外から秋田市内の高校に通学している学生は対象外である。</p> <p>推薦枠は5名だが、最近4名と枠が埋まらず、推薦枠の設定が難しくなっており、本学内では、入学試験制度について改善しようと検討しているところである。</p>
委員	<p>連番の12について、資料1-3の28年度業務実績では、推薦入試および一般入試などの入試区分によって入学後の成績に大きな差が見られないとあるが、これをどう捉え、どのようにするのか伺いたい。</p>
公立大学法人	<p>当初、推薦入試と一般入試の学生に学力の差があると思っていた。</p> <p>推薦入試の学生は、最後の追い込みの勉強がない分、一般入試の学生と比較し、学力が落ちるのではということから、補講など行わなくてはなら</p>

ないかこの4年間見てきたが、学力の差は見られなかった。

また、推薦入試について市内の高校に話を聞いたところ、推薦を市外や市内と区別してなく県内の学生の推薦と捉えているため、本学の市内推薦制度とズレがあった。

これらのことより、入試制度の改善を進めているところである。

委員

美術大学設置の目的は、当然ながら芸術を通じた地域活性化であるが、他県の高等教育の存在が秋田の人口減少に繋がっているのではないかということから、県立大学や秋田公立美術大学の存在が人口減少の歯止めをかけるか、若者を秋田に定住させるかといったことも頭に入れてほしい。卒業生が秋田に就職した実績を伺いたい。

公立大学法人

67人のうち、秋田に残った卒業生は35.8パーセントである。

秋田県外出身の学生は県外に出て行くと思われたが、地域の方とふれあうことによって秋田の人の良さや魅力を学生自身が発掘し、秋田が好きになった結果と思われる。

また、教員採用試験では、本学の実績をあげるためには東京の試験がよいのだが、秋田県教員試験の受験を希望した学生もいる。

公立大学法人

今年度は、本学の福島県出身の卒業生が秋田市役所に就職した。

委員

市内に卒業生が残るような就職支援等をお願いしたい。

公立大学法人

地域と連携してプロジェクトを現場で作っていく活動をしていることから、地域や地域活動に興味をもつ学生が育ってほしいと思っている。

展示会場については、場所によりなかなか見に来る人がいないという面もあるが、学生にとって美術の空間というものを体験していく場所になっている。

このような地域活動などに新しいクリエイティビティが、学生の就職や進路にどのように繋がっていくのか重要なことである。

委員

彫刻など街中に美術大学のアートがあふれているようになればよい。

公立大学法人

卒業生の作品を買い上げたり、保存することも必要と考えている。

それを行うためには場所などの課題があるが努力したい。

委員長

ただ今の意見について、事務局で集約し、次回の委員会で確認できるように願います。

次第4 議事 (2) 秋田公立美術大学平成28年度財務諸表について

委員長

次に議事(2)「平成28年度財務諸表について」を審議する。
大学から説明をお願いする。

公立大学法人	(資料3、資料4に基づき説明)
委員長	事前聴取の結果、財務諸表への意見等および対応状況について、意見があればお願いします。
委員	<p>キャッシュ・フロー計算書を見ると、本来の業務活動で稼いだ資金と投資活動による資金で、リース債務の返済に充てて、最終的に単年度で227万9千円と若干資金は増加しているが、寂しい感じがする。</p> <p>資料4の論点整理表の3番の対応状況について、内容は本来業務であるため、見込みより増えたから減ったからというのは判断が甘いのではと思う。</p> <p>運営に支障をきたさないだけの、授業料収入の最低限度の目標数値は達成するという意気込みがほしいので検討してほしい。</p>
公立大学法人	将来、考えたい。
委員	<p>資料4の論点整理票の1番について、一部のソフトウェアを資産計上しているが、民間と同じ会計基準であれば、将来の収益獲得または費用削減が確実なものとして資産性を評価し計上する。</p> <p>このケースでは、おそらく収益目的より費用の削減が確実なものとして資産性を計上したと思われるが、そうした費用削減の実績はどのように法人内でフォローされているのか伺いたい。</p> <p>また、資料4の論点整理票2番について、指摘したところは、固定資産の取得として計上していることは理解したが、では、資料1-3の業務実績で記載のあった修繕費として予算を獲得した予算とは何のことか。</p> <p>キャッシュフローベースで別途の予算制度を持っているのか、または、固定資産の取得については損益計算書に減価償却を取らないということなので、一体何に対する予算の確保なのかわかりづらい。</p> <p>長期修繕計画に含めてよい話なのかどうか、補足説明をお願いします。</p>
公立大学法人	<p>1番について、大学内でご質問のあった件に関わらず、年度計画の評価の際に把握し、評価している。</p> <p>実際、どの程度削減できたかは、昨年度と比較している。</p> <p>2番について、長期修繕計画は、耐用年数が達したことで資産の価値を上げるために投資し、耐用年数を落とすものである。</p> <p>また、性能や能力を維持していくものは修繕的なものを別に計上しており、このような点から資産になるか否かを判断している。</p>
委員	費用性のあるものは、修繕計画の修繕費でよいが、資産性のある支出について、修繕計画の中で予算を取得したとだけ業務実績に記載すると、それが資産計上の対象なのか、単なる部品交換のような費用なのか外形的に判別しがたいので、記載の仕方の工夫かもしれなが、明確化を図ってはどうか。

公立大学法人	そのようにしていきたい。
委員長	質問のみでその他、特に意見はないようなので、当委員会では「意見なし」として決定する。
次第5 その他	
事務局	「平成29年度第2回「秋田市公立大学法人評価委員会」は8月4日15時から同会場で開催する。 議題は、業務実績評価書の審議等を行う予定である。
次第6 閉会	
事務局	これをもって「平成29年度第1回「秋田市公立大学法人評価委員会」を閉会する。